

9. 真空中の電磁波

基本事項

- ・波動として伝わる電磁場はマクスウェル方程式を満たす，光速
- ・電磁波は横波．直線偏光と円偏光
- ・電場と磁場と進行方向は互いに直交する
- ・電磁波のパワー密度と電場・磁場の関係
- ・マクスウェル方程式から波動方程式へ

確認

Q1. $\vec{E}(x, y, z, t) = \vec{E}_0 \cos(kx - \omega t)$ という電場の波について，①波の進行方向，②波長，③振動数，④振幅，⑤波の速さ(位相速度)を右辺に与えた量で書け．⑥波面(等位相面)はどのようなになるか．

Q2. $\vec{E}(x, y, z, t) = \vec{E}_0 \cos(kx - \omega t)$ と $\vec{B}(x, y, z, t) = \vec{B}_0 \cos(kx - \omega t)$ が真空中(電荷と電流がともに0)のマクスウェル方程式を満たすとき，

① $\nabla \cdot \vec{E} = 0$ と $\nabla \cdot \vec{B} = 0$ から電場が横波である(進行方向に振動しない)ことを示せ．

②一般的な場合につき，真空中のマクスウェル方程式 $\nabla \times \vec{B} = \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial \vec{E}}{\partial t}$ と $\nabla \times \vec{E} = -\frac{\partial \vec{B}}{\partial t}$ を連立し \vec{B} を消去せよ． $\nabla \times$

$(\nabla \times \vec{E}) = \nabla(\nabla \cdot \vec{E}) - \nabla^2 \vec{E}$ を用いて式を簡素化すると $\nabla^2 \vec{E} - \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial^2 \vec{E}}{\partial t^2} = \mathbf{0}$ を得ることを確認せよ．

③ $\nabla^2 \vec{E} - \epsilon_0 \mu_0 \frac{\partial^2 \vec{E}}{\partial t^2} = \mathbf{0}$ に \vec{E} の具体的な関数形を代入し($E_{0y} \neq 0$ とし E_y についての式を立てよ)，この波の位相速度を

$\epsilon_0 \mu_0$ で表せ． $\epsilon_0 \approx 8.9 \times 10^{-12}$ F/m, $\mu_0 = 4\pi \times 10^{-7}$ H/m を用いて，電磁波の位相速度を計算せよ．

④ $E_{0y} \neq 0, E_{0z} = 0$ のとき $B_{0y} = 0$ (すなわち電場と磁場が直交)となることを示せ．

⑤ ④において， E_{0y} と B_{0z} の関係を求めよ．

⑥ 電磁場のエネルギー密度 $u = \frac{\epsilon_0}{2} |\vec{E}|^2 + \frac{1}{2\mu_0} |\vec{B}|^2$ に具体的な関数形を代入し u の時間平均(1周期で) $\langle u \rangle$ を求めよ．

⑦ $\frac{\epsilon_0}{2} |\vec{E}|^2$ と $\frac{1}{2\mu_0} |\vec{B}|^2$ は，時間平均が等しいことを示し，エネルギー密度の時間平均を電場の振幅だけで(磁場を使わず)表せ．

⑧電磁波が光速 c で進むことから，パワー密度の時間平均 $\langle P \rangle$ をエネルギー密度 $\langle u \rangle$ で表せ．パワー密度が $1\text{W}/\text{cm}^2$ のときの電場の振幅はどれだけか．

Q3. 真空中のマクスウェル方程式から，電場と磁場の各成分について波動方程式が導かれることを示せ． x 方向

に位相速度 c で伝わる平面波 f (サイン波とは限らない) がしたがう波動方程式は $\frac{\partial^2 f}{\partial x^2} - \frac{1}{c^2} \frac{\partial^2 f}{\partial t^2} = 0$ ．一般的には $\nabla^2 f -$

$\frac{1}{c^2} \frac{\partial^2 f}{\partial t^2} = 0$ である．